

長岡京・四町利用宅地の検討

(公財) 長岡京市埋蔵文化財センター 木村泰彦

JR 長岡京駅西口再開発に伴う調査により、長岡京跡右京六条一坊十一・十二・十三・十四町の四町域を利用した整然と並ぶ建物群と周囲を巡る規模の大きな内溝を確認した。

- ・右京第 606・630・654 次調査 1998 年 6 月～2000 年 3 月 最初の大規模調査。
掘立柱建物 29 棟と溝・土坑・カマドなどを検出。
その後 2012 年まで関連調査が行われ、以前の調査も合わせて周辺の状況が徐々に明らかとなる。
- ・右京第 184・724・725・785・771・800・1038 次調査で掘立柱建物を検出。内 4 棟は廂付き建物
- ・右京第 782 次調査 竪穴状遺構、北側内溝、製鉄工房関連遺物。北東部は工房区域。
- ・右京第 609・863 次調査 六条条間小路と北側内溝を検出。
- ・右京第 641 次調査 西側内溝の一部を検出。
- ・右京第 77 次調査 西一坊大路を検出。
- ・右京第 781 次調査・立会 01166 次調査で南側内溝を検出。
- ・右京第 886 次調査 六条大路北側溝を検出。

建物群の特徴

- ・東西・南北の小路（西一坊坊間西小路・六条条間南小路）が検出されず、掘立柱建物が存在している。
- ・建物はすべて東西棟で、簡素な作りである。2×10 間の大形建物 2 棟以外は、大半が 2×5 間である。
- ・建物は北部のものは西で約 1° 北に振れているが、中央付近の建物はほぼ東西方向を向き、南部の建物群は東で 1～2° 北に振れている。これらの建物は方位は異なるが南北の柱筋がほぼそろっており、一定の設計の元に建てられている。長岡京の初期造営段階の遺構群。
- ・建物には同一個所に同一規模で 2～3 回の建て替えを行っているものがある。一時的なものではなく一定期間使用され続けている。
- ・南側の建物には内部に炭を含んだ土坑を持つものがあり、これらは床のない建物とみられる。
- ・南側建物群の間には、長岡京では非常に珍しい作り付けのカマドが 3 基認められる。日常的に煮炊きが行われていたとみられる。
- ・北部の建物には廂付きのものが多く、管理施設（政所？）
- ・西半分には建物などの遺構が極めて稀薄である。

四町域の周囲には規模の大きな内溝が巡る。

- ・南辺部は幅 4.3～4.5 m、深さ 0.4～0.6m と広くて深い。北辺部では幅 3.5、深さ 0.3 m である。
- ・南辺部では幅 2.5m の陸橋がある。出入り口？
- ・内溝の方位は北側・南側共に西でわずかに南に振れていて、条坊側溝とは並行していない。建物群と同様、造営初期段階の遺構と見られる。

出土遺物

- ・土師器の出土量が須恵器に比べて多い。多いところで8割、平均6～7割で、長岡京の一般的土器組成。
- ・墨書土器は多くなく、線刻土器が一定量出土する。
- ・北東部では製鉄関連の遺構、遺物があり、南側でもフイゴなどの関連遺物が出土している。
- ・製塩土器が一定量出土しており、部分的に集中して出土する。

建物群の性格について

宿舍説 長岡京造営に関わる大勢の人間を収容するための施設。

初期段階の遺構である。簡素な建物群である。線刻土器の出土（非識字層の存在）。カマドや日常的土器の多さ。製塩土器の存在。

問題点 四町域内で井戸がまったく見つかっていない。

臨時倉庫説 大蔵完成までの間、諸国から送られてくる税を保管するための臨時倉庫。

問題点 建物が簡素すぎる。倉庫周辺は火気厳禁であるが、カマドや炭を含んだ土坑が多数ある。建物が同じ場所に同じ規模で建て替えられている。

西市ないしそれに関連する倉庫説

復原図などで見られる市のイメージ図と簡素な建物群の状況が一致する。造営初期段階に東西市が完成している。（延暦5年5月）

問題点 平城京の東市では同様の建物群の並びは確認されていない。平安京でも未確認。西市候補地は出土遺物などから他の場所（右京六条二坊～七条二坊付近）と考えられる。倉庫説については上に同じ。

現段階では長岡京造営に関連する宿舍とそれらの管理施設群と考える。遺構の稀薄な西半分は資材置き場。

○長大な2棟の建物 厩舎ではないか？

造営作業に使役された馬の厩舎では無いか？（牛の可能性も？）

馬小屋・厩舎の判断基準 篠崎譲治『馬小屋の考古学』より

- ① かまど・炉はない。
- ② 竪穴が設けられている。
- ③ 床面は傾斜している。
- ④ 尿溜めがある。
- ⑤ 張り出しがつくものがある。
- ⑥ スロープが設けられているものがある。

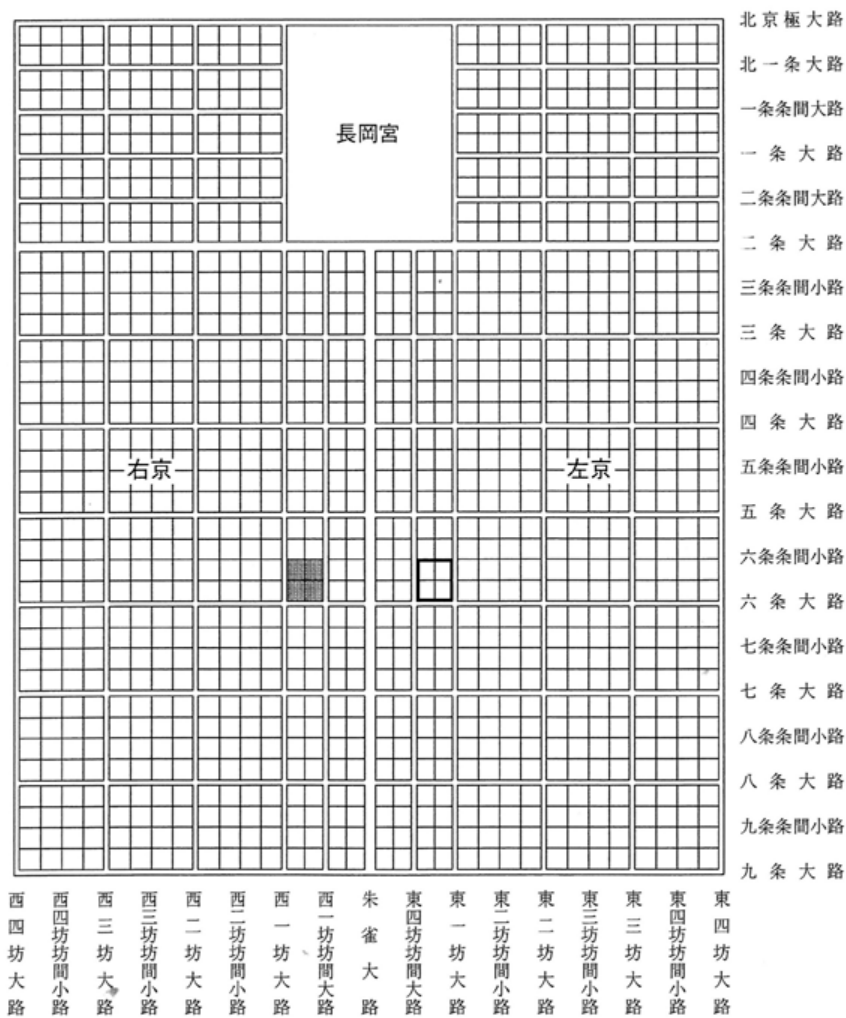
平城京馬寮官衙域の厩舎 竪穴および竪穴に設けられた溝状・土坑状の尿溜めが見当たらない。

- ・都城における厩舎の形態？
- ・製塩土器の集中出土も馬飼育との関連？

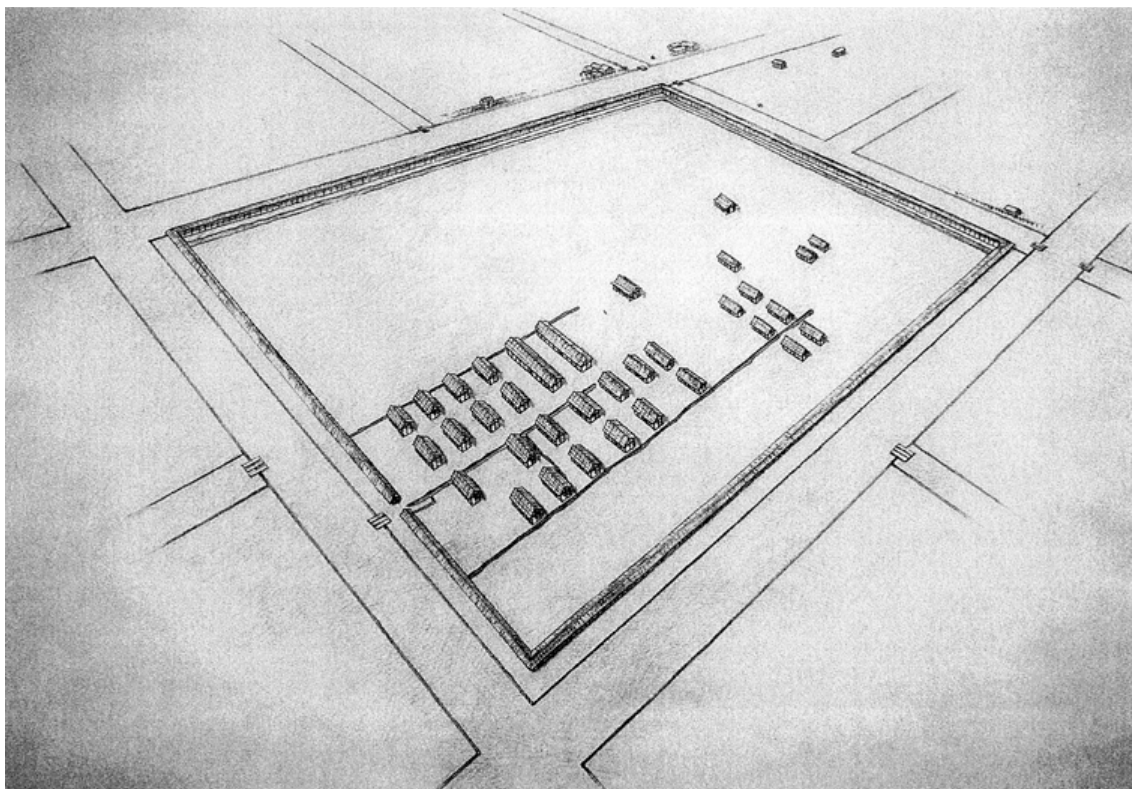
○井戸が検出されない点について 少ない井戸で集中的に管理されていた可能性。

○対称位置にある左京六条一坊十一・十二・十三・十四町にも同様の施設があったのか？

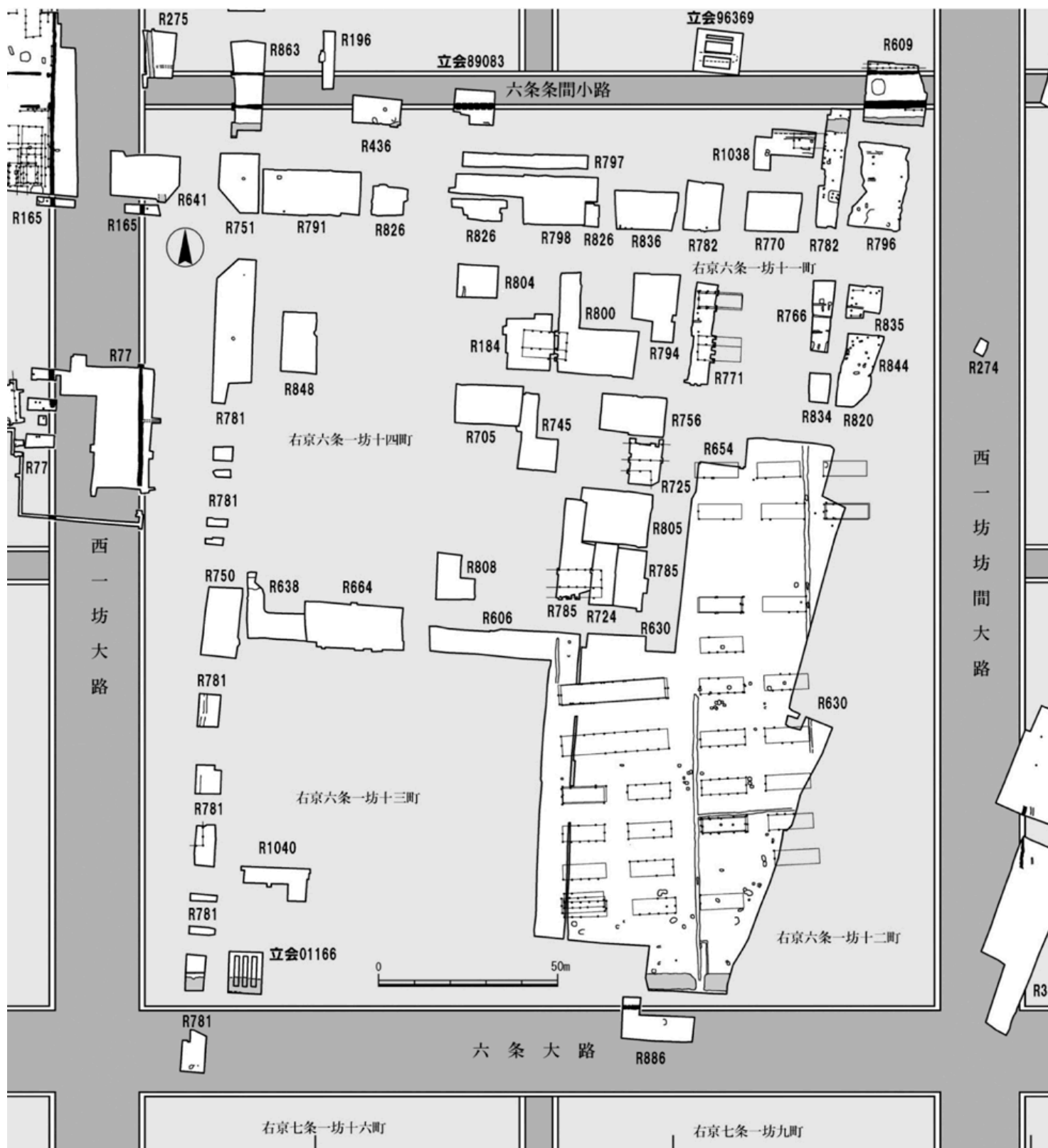
- ・最近の調査で条坊側溝と宅地内溝を伴った遺構が検出。
- ・複数の造営関連施設が存在？



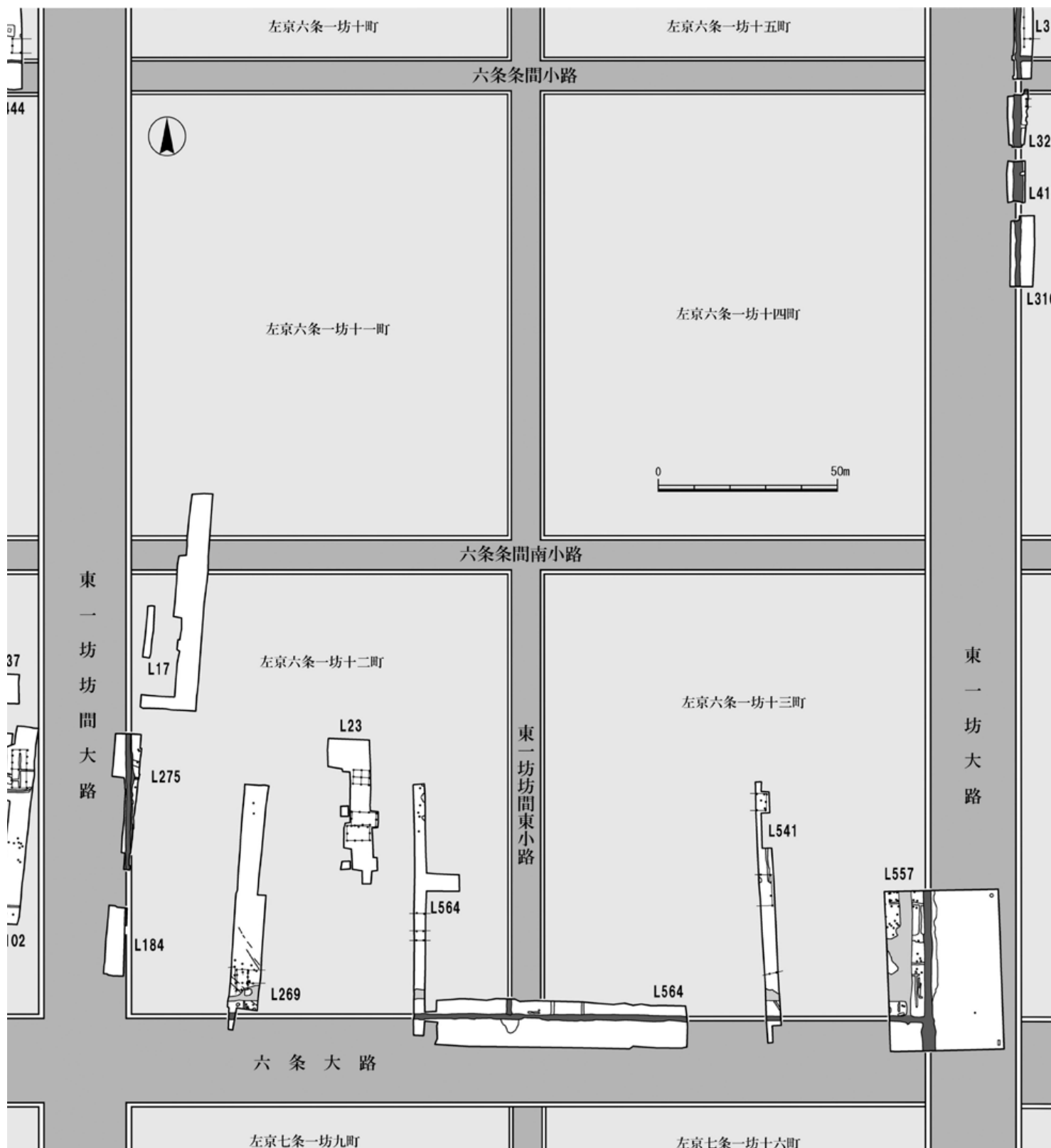
調査地位置図



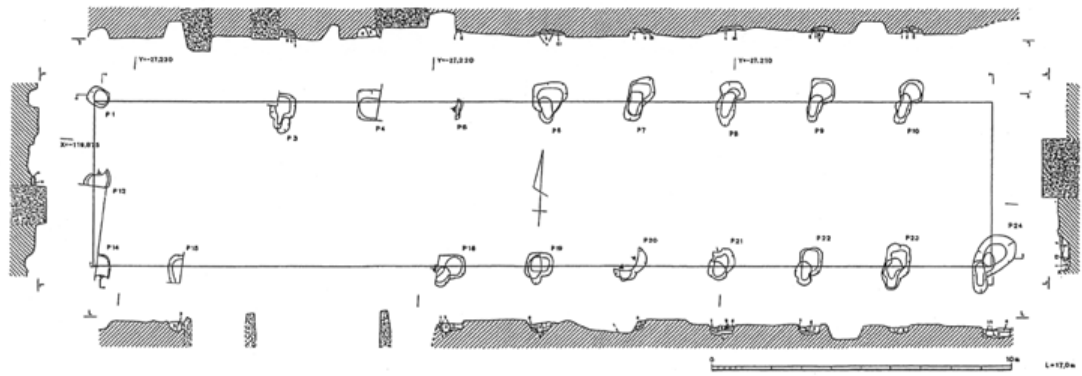
右京六条一坊十一・十二・十三・十四町建物群のイメージ



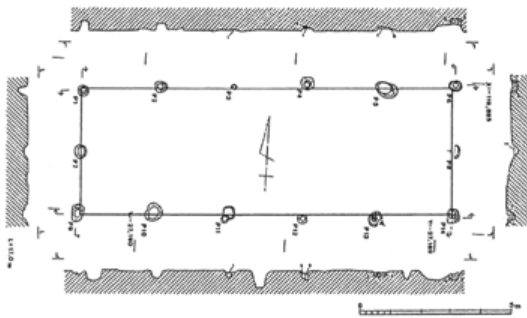
長岡京右京六条一坊十一・十二・十三・十四町調査地 (1/1500)



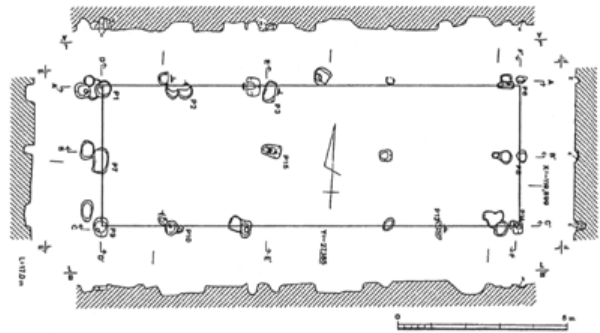
長岡京左京六条一坊十一・十二・十三・十四町調査地 (1/1500)



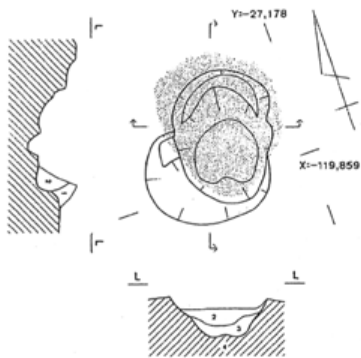
大型掘立柱建物 SB370 (1/250)



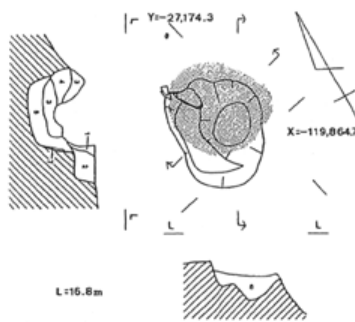
小型掘立柱建物 SB285 (1/250)



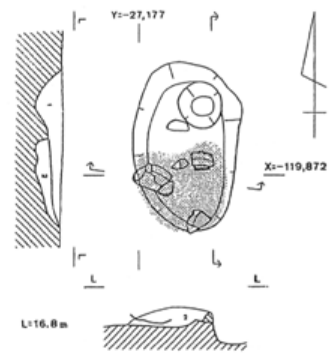
小型掘立柱建物 SB107 (1/250)



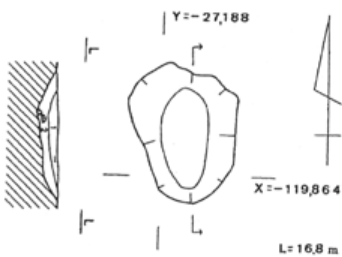
カマド SX506 実測図 (1/30)



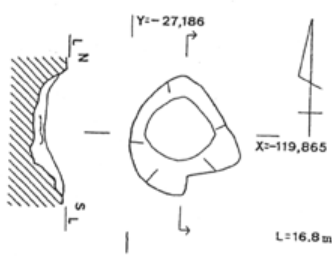
カマド SX507 実測図 (1/30)



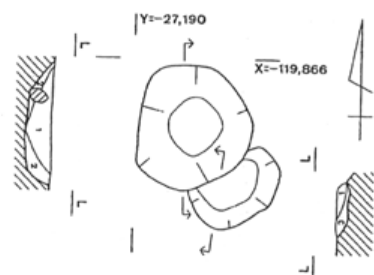
カマド SX460 実測図 (1/30)



土坑 SK427 実測図 (1/50)

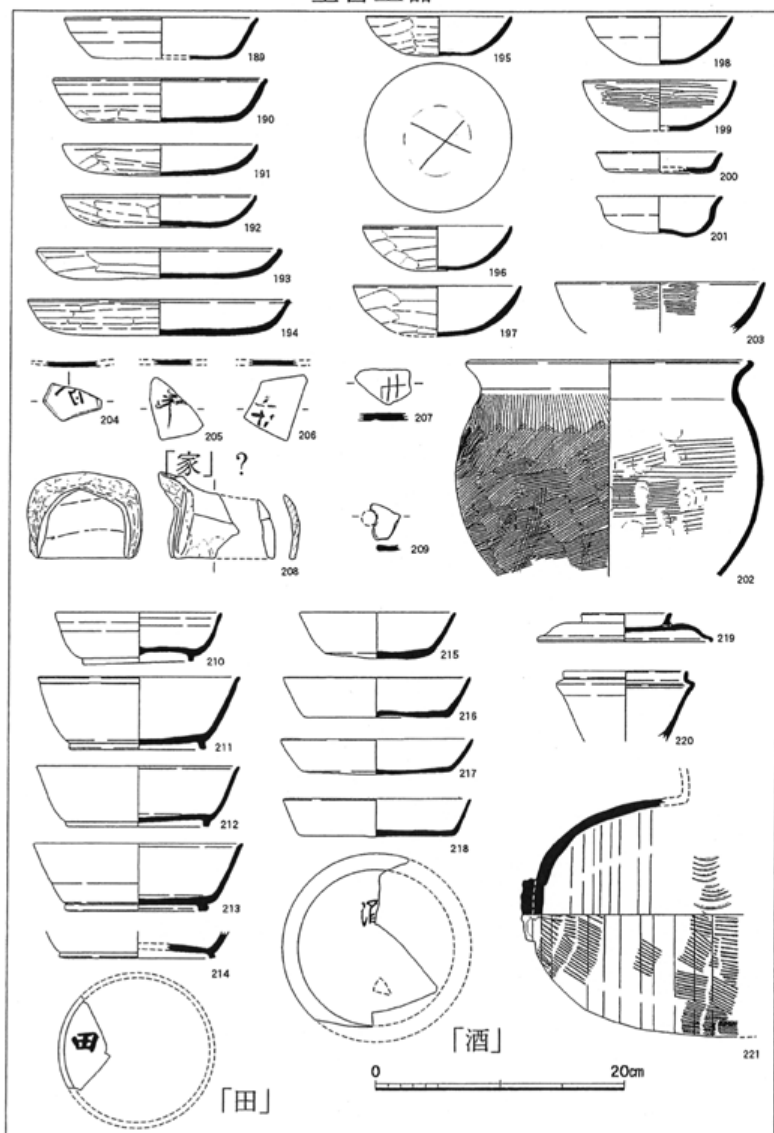


土坑 SK415 実測図 (1/50)



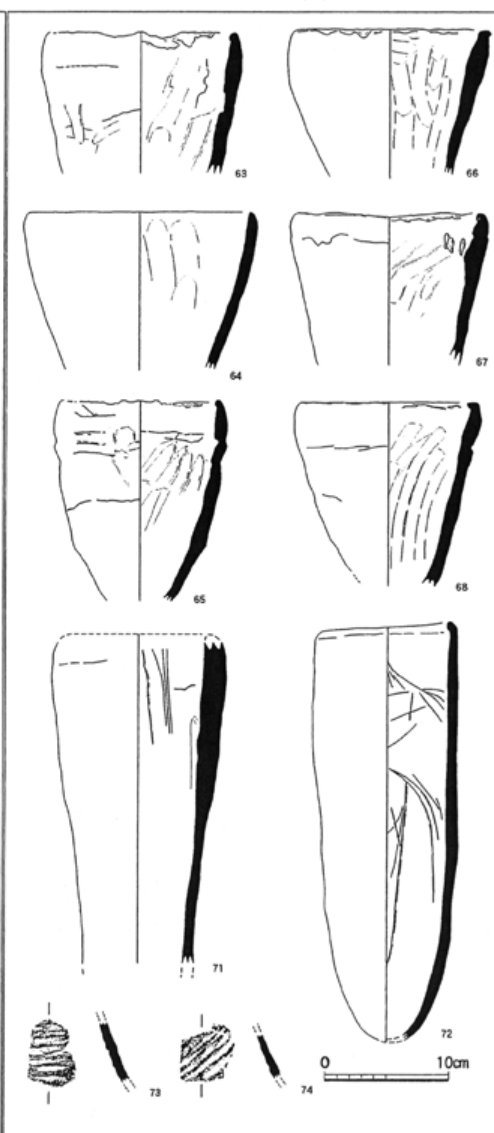
土坑 SK428・SK439 実測図 (1/50)

墨書土器



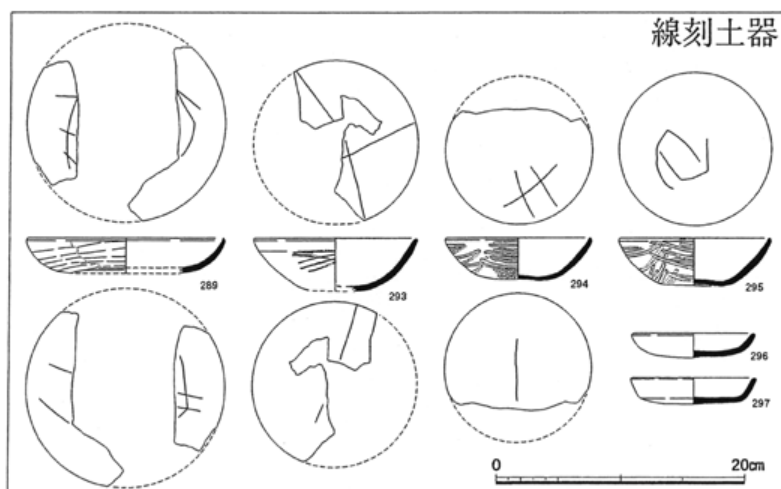
区画溝 SD18 出土遺物 (1/6)

製塩土器

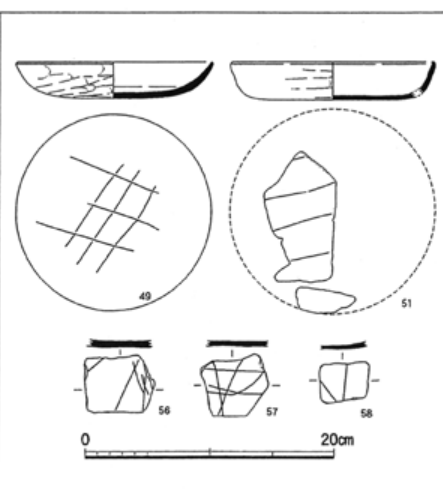


溝 SD346 出土遺物-1 (1/6)

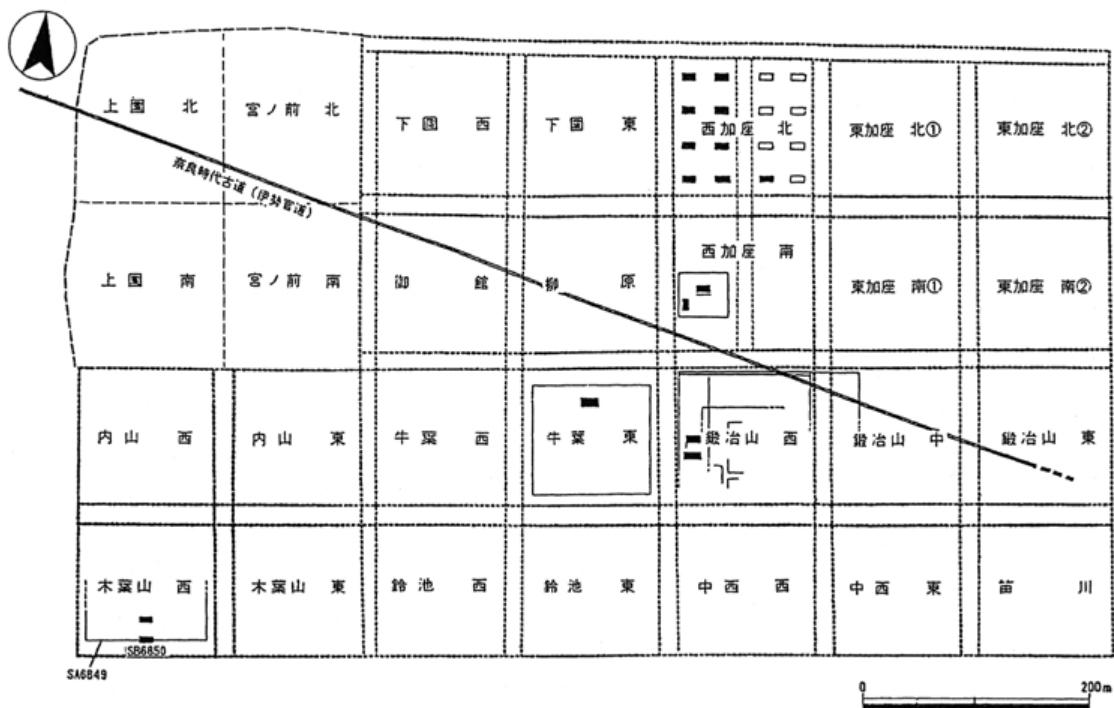
線刻土器



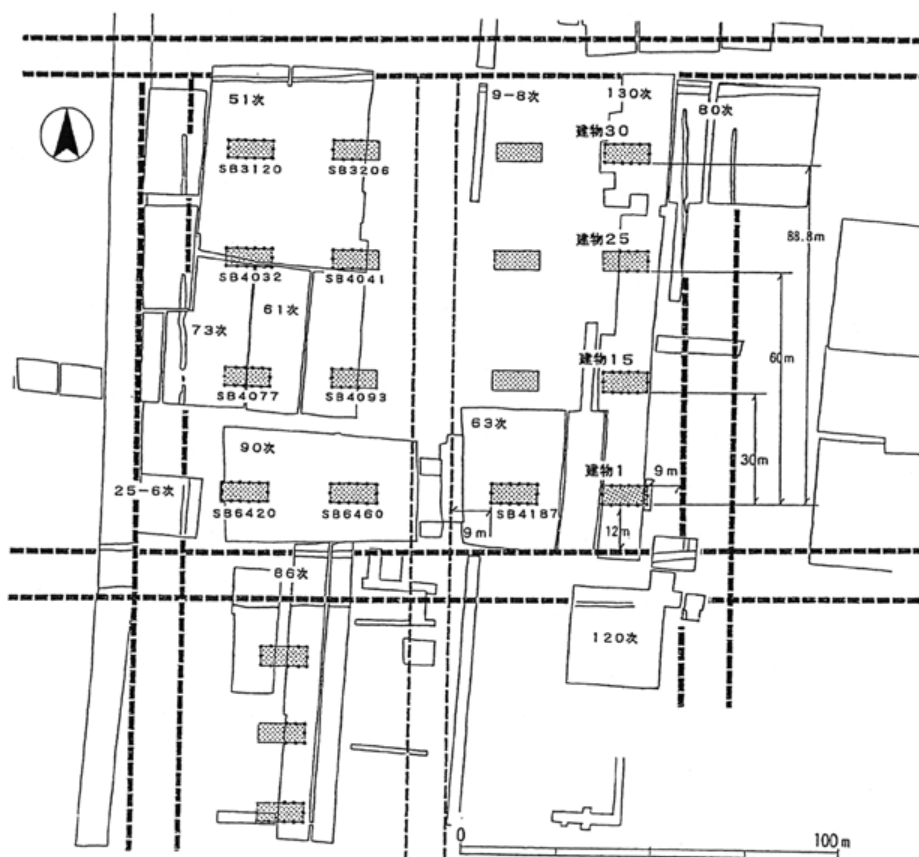
土坑 SK525 出土遺物 (1/6)



溝 SD346 出土遺物-2 (1/6)



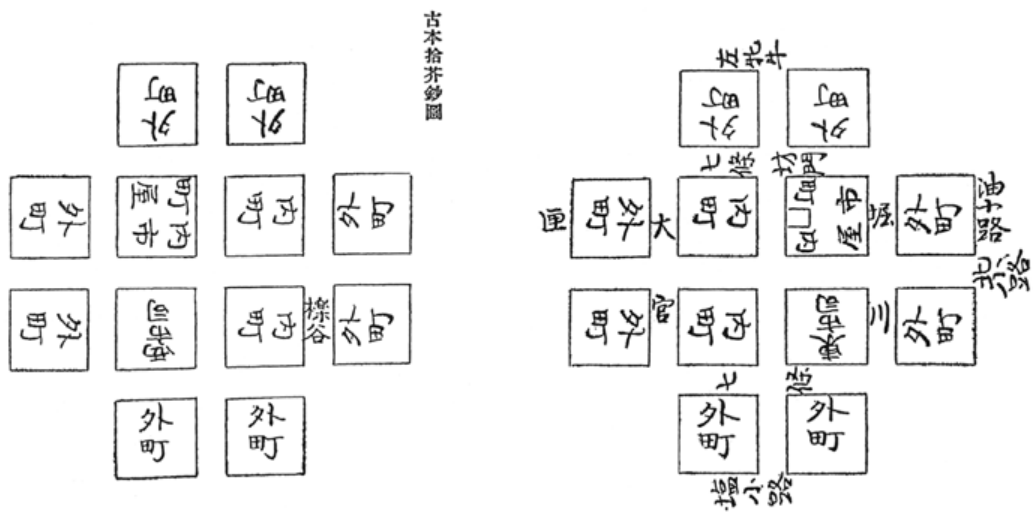
斎宮跡の方格地割



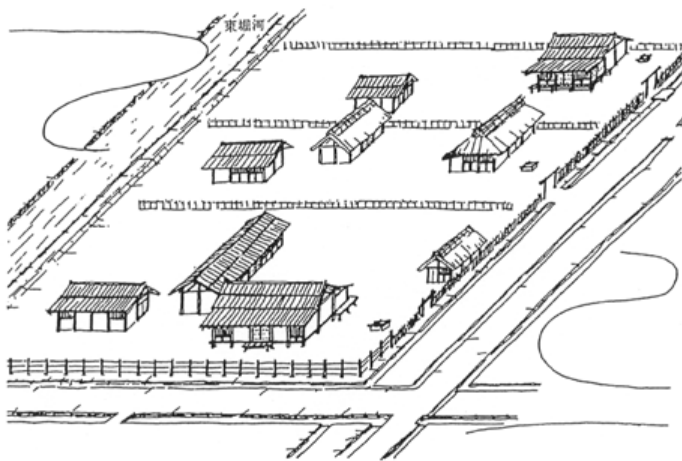
斎宮加座北区画建物配置図

延暦三(七八四)年六月十三日、長岡連都を賀茂大神の社に報告する。また、本年の調庸と、造管人夫の用度物を長岡宮に進上させる

三「続日本紀」延暦三年六月十三日条
新訂増補国史大系「二
壬子。遣_ニ参議近衛中将正四位上紀朝臣船守於賀茂大神社。奉_レ幣。以_レ告_ニ遷都之由_一焉。又今年調庸。并造_ニ宮工夫用度物_一。仰_ニ下諸国_一。令_ニ進_ニ於長岡宮_一。

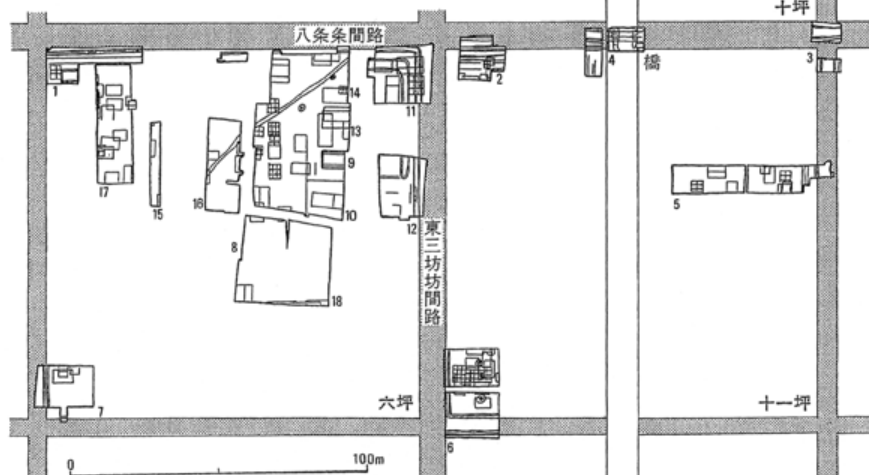
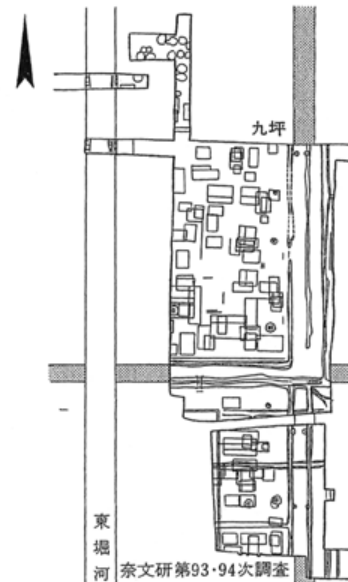


平安京の東西市（古本拾芥鈔図）



平城京東市の景観復元（左京八条三九坪）

奈良国立文化財研究所編 1976



平城京東市跡推定地（左京八条三坊六・九・十・十一坪）の遺構平面図